

令和2年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	株式会社リボーン	代表者	飛田 尚文	法人・事業所の特徴	当事業所は総合福祉サービスを展開しており、利用者様の多様なニーズに応えられるように事業展開しております。当施設におきましては、全館バリアフリーとなっており安全に過ごして頂ける環境となっています。入浴では特浴・リフト浴・歩行浴もあり、ご利用者様の状態に合わせた入浴支援を行っています。施設の隣は保育園で子供達の元気な声が利用者様を元気にしてくれます。
事業所名	スローライフごち	管理者	涌井 一美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	2人	人	1人	1人	人	3人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	*事業所の取組みを理解してもらえるように、全職員に所属会議の議事録を配布して理解を深めてもらう。	*現職員に所属会議の議事録を配布して施設の取組みを少しでも理解してもらえた。	*自己評価の結果を見ると成年後見制度の理解を職員はしていない。 *感染症予防や利用者のことを考えて行事等の工夫ができています。 *活動はしっかるされている、町内の協力もある、介護の質を上げてほしい。	*所属内会議で成年後見制度の研修をして職員の理解を深める。 *感染症予防をしっかりと行い、利用者を楽しんでいただけるように取り組んでいく。
B. 事業所のしつらえ・環境	*今後も来所した利用者や利用者家族、地域の方に気持ちの良い施設にしていく。	*コロナ禍の中、利用者家族や地域の方の来所はなかった。施設内壁面の飾り付け等利用者を楽しんでもらえるよう職員は取り組んだ。	*コロナ禍で家族、地域の方の来所自体が少なかった。 *建物は、平屋建てで開放的である。 *隣に保育園があるが、スピードを出す車があるので事故に気を付けてほしい。	*今後も来所した、利用者家族や地域の方に不快を与えないような施設作りをする。
C. 事業所と地域のかかわり	*今後も地域のクリーン活動や地域の行事に積極的に参加して、今以上に認知していくようにしていく。	*コロナ禍の中、多くの施設行事、地域行事が中止となった。地域のクリーン活動のみ参加した。	*コロナ禍で施設行事、地域行事が中止となり、交流はできなかった。 *クリーン活動のみ外作業なので密を避け参加した。	*コロナ禍が落ち着いたら、施設行事を行い地域の行事にも参加していきたい。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	*今後も花壇の花を楽しんでもらえるように、四季の花や元気な色の花を植える。	*春は予定通り花を植えたが、夏の暑さで枯れたしまった。残念だった。	*県外からの家族の往来も出来なかったため訪問に切り替え対応した。 *送迎等で別の地域に行った時に、新聞受けの新聞や様子が変わった方が見られたら包括に連絡が欲しい。	*SLごちの利用者だけでなく、他地域の方の変化を見落とさないようにしていく。 *今年度も毘沙門公園に花を植える。
E. 運営推進会議を活かした取組み	*運営推進会議で頂いた意見や職員に参加してもらった内容を、所属会議で報告して職員に理解を深めてもらう。	*運営推進会議に職員の参加は出来なかったが、頂いた意見は所属会議で報告して話し合いを持った。	*地域から何かと言うより、事業所から言ってほしい自分の立ち位置が分からない。 *地域の方に相談に来てほしいというが、行くと業務に入っていたり休みだったり話を聞いてもらえないことがある。	*地域向けに新聞を発行して、SLごちの取組みを理解してもらう。
F. 事業所の防災・災害対策	*「いつ」起こるか分からない災害等に対して「誰が」遭遇するか分からないため職員全員が同じ対応ができるように研修を行なう。	*災害時に備え所属会議で、非常災害時対応、緊急時対応の研修を行なった。また、年2回の避難訓練も行った。	*昨年、施設近所で2件の火災があり、気を付けてほしい。 *いざという時に備え、防災計画等の見直しをして、職員に周知してほしい。 *地域に消防団はあるが高齢化している。	*施設より火災を出さないように、年2回の防災訓練を行い、防災計画を見直す。